

第2期 はちおうじ学園都市ビジョン

令和6年度～令和12年度（2024年度～2030年度）

素案

令和6年（2024年）3月

八王子市

表紙裏

市長挨撈

調整中



目次

第1章 策定にあたって	5
1 策定の趣旨	6
2 位置づけ	7
3 計画期間	8
第2章 「学園都市八王子」を取り巻く状況	9
1 国の動向	10
2 前計画「はちおうじ学園都市ビジョン」の成果	12
3 八王子市の現状	19
4 大学等の現状	20
5 学生の現状	22
第3章 ビジョンの全体像	27
1 基本理念・キャッチフレーズ	28
2 7つの基本施策	28
3 指標	31
第4章 基本施策	33
第5章 ビジョンの推進にあたって	49
1 推進体制	50
2 進行管理	52

資料編

調整中

第1章

策定にあたって

1

策定の趣旨

本市は、昭和30年代から大学等の進出が始まり、令和5年度（2023年度）現在では、市内に21の大学・大学院・短期大学・高等専門学校（以下「大学等」という。）が立地し、約9万人の学生が学んでいます。

この「学園都市八王子」としての特徴を活かして、平成15年（2003年）8月に大学等連携担当職員を配置する学園都市文化課を設置し、平成21年（2009年）4月には大学等とともに大学コンソーシアム八王子を設立しました。そして、平成29年（2017年）4月に、学園都市づくりを計画的に推進するため、分野別計画となる前計画「はちおうじ学園都市ビジョン」を策定し、地域社会の発展と高等教育の充実を目指して様々な施策を展開してきました。

少子高齢化などに起因する厳しい社会環境の変化が見込まれる2040年を見据え、本市は、行政が市民や企業、大学などと目標を共有し、様々な変化に柔軟に対応しながら協働のまちづくりを進めることで地域全体が維持・発展することを目指しており、大学等をまちづくりにおける重要なパートナーとして捉えています。

大学等の高等教育機関は、教育と研究という本来的な機能の発揮を通じて、社会や経済を基盤として支えています。

大学等と地域が連携するうえでは、大学等が、様々な課題が生じる最前線である地域を「社会的な実践の場」として教育研究活動を展開し、この取組を通して地域が活性化される、このような好循環を生み出していけるような関係性を築く必要があります。

このような状況を踏まえ、大学等と本市が、支え合いながら発展していくにあたり、目指すべき姿を定め、この実現に向けて相互に協力して取り組むうえでの道標とするため、「第2期はちおうじ学園都市ビジョン」（以下「本ビジョン」という。）を策定しました。

2

位置づけ

本ビジョンは、基本構想・基本計画「八王子未来デザイン2040」に掲げるまちづくりの基本理念「人とひと、人と自然が響き合い、みんなで幸せを紡ぐまち八王子」の実現に向け、学園都市づくりの基本理念と基本方針を明確にするものです。

なお、学園都市づくりは、様々な施策分野と連携して効果を発揮するものであるため、各分野別計画との連携を図りつつ取組を進めていきます。

基本構想・基本計画 「八王子未来デザイン2040」



↓ 学園都市づくりの基本理念・
基本方針の明確化

「第2期はちおうじ学園都市ビジョン」

連携

八王子市
の
分野別計画

3

計画期間

「八王子未来デザイン2040」の計画期間に合わせ、令和6年度（2024年度）から令和12年度（2030年度）までの7か年とします。

八王子市におけるSDGsの取組

SDGs（Sustainable Development Goals：持続可能な開発目標）とは、平成27年（2015年）9月の国連サミットで採択された「持続可能な開発のための2030アジェンダ」で示された17ゴールと169ターゲットです。発展途上国向けの開発目標である「MDGs（ミレニアム開発目標）」の後継として採択され、発展途上国のみならず、先進国を含む国際社会全体の開発目標です。地球上の「誰一人として取り残さない」社会の実現を目指し、経済・社会・環境をめぐる広範囲な課題に対する総合的な取組が示されています。

本市においては、基本構想・基本計画「八王子未来デザイン2040」における基本理念「人とひと、人と自然が響き合い、みんなで幸せを紡ぐまち八王子」が、SDGsに掲げる持続可能な社会の実現と方向性が一致していることから、基本計画に定めた37の施策を着実に実行することで、17のゴールの達成へ貢献していくことを掲げています。

基本理念を「大学等と地域がともに発展するまちづくり」とする本ビジョンにおける取組は「17パートナーシップで目標を達成しよう」を中心にあらゆるゴールに繋がっています。基本施策に掲げる各取組を推進することで、引き続きSDGsの達成に貢献していきます。



第2章

「学園都市八王子」を
取り巻く状況

1 国の動向

(1) 大学等の在り方

デジタル化や脱炭素化といったメガトレンドは、必要とされる能力やスキルを変え、職種や産業の労働需要を大きく増減させる可能性があります。

こうした中、未来を支える人材を育成・確保するためには、教育を含む社会システム全体の見直しが必要となります。大学等の高等教育機関には人材育成の中核を担うことが期待され、成長分野への学部再編など、その機能強化の必要性が指摘されています。（経済産業省「未来人材ビジョン」より）

またこの他に、国としても奨学金支援制度の充実などによる、誰もがその意欲に応じて学ぶことのできる環境整備や人生100年時代に向けた学び直し（リカレント教育）を促進するための環境整備を進めるとしています。

コラム

未来を支える人材像

国では「好きなことを追求して高い専門性や技術力を身に付け、自分自身で課題を設定して、考えを深く掘り下げ、多様な人とコミュニケーションをとりながら、新たな価値やビジョンを創造し、社会課題の解決を図っていくことのできる人材」を未来を支える人材像として挙げています。

出典：教育未来創造会議※「我が国の未来をけん引する大学等と社会の在り方について（第一次提言）」

※ 教育未来創造会議

国の未来を担う人材を育成するためには、高等教育をはじめとする教育の在り方について、国としての方向性を明確にするとともに、誰もが生涯にわたって学び続け学び直しができるよう、教育と社会との接続の多様化・柔軟化を推進する必要があるとして令和3年（2021年）12月から開催されています。

(2) 地域と大学等の連携

人口減少をはじめとした、社会の劇的な変化を踏まえ、近年、地域における大学等の役割に対して、今まで以上に注目が集まっています。

大学等には地域の人材育成や課題解決に向けて、地域ならではの学びやイノベーションの創出が求められ、それらは、各大学等の「特色」や「強み」ともなります。また、大学等が地域の中核的な拠点となるに当たっては、地域のために大学等が貢献するとともに、地域が大学等と一緒に取組を進めていく、そのような大学等と地域の関係の構築が重要です。

そこで国では、地域の核として、地域の産業界等と連携して地域課題の解決や地域が求める人材の養成に貢献する大学等の支援や産学官連携によるイノベーションプラットフォーム整備を推進するほか、地域連携プラットフォームの構築に関するガイドラインの策定や大学等連携推進法人の制度化により、大学等と地域の産業界や地方公共団体との連携や、地域の大学間での連携を推進しています。

コラム

地域における大学等の役割

地域において大学等が果たす重要な役割は下記1～4のように、様々に存在します。

- | | |
|-----------------------|----------------------|
| 1 人材育成機関としての役割 | 3 地域の文化・歴史を発展・継承する役割 |
| 2 高度な研究能力を有する機関としての役割 | 4 知と人材のハブとしての役割 |

【大学等にとっての地域の魅力】

- (1) 学修のフィールド
- (2) 様々な経験の場
- (3) イノベーション創出のきっかけとなる地域課題の宝庫
- (4) DX・グローバル化の最前線

【大学等が地域で求められる取組】

- (1) 産学官連携
- (2) 人材が集まる「魅力のある地域」、地域の課題解決や地域経済の発展を支え地域に貢献する「地域の中核となる大学」を目指す取組

出典：中央教育審議会大学分科会「これからの時代の地域における大学の在り方について－地方の活性化と地域の中核となる大学の実現－」

2

前計画「はちおうじ学園都市ビジョン」の成果

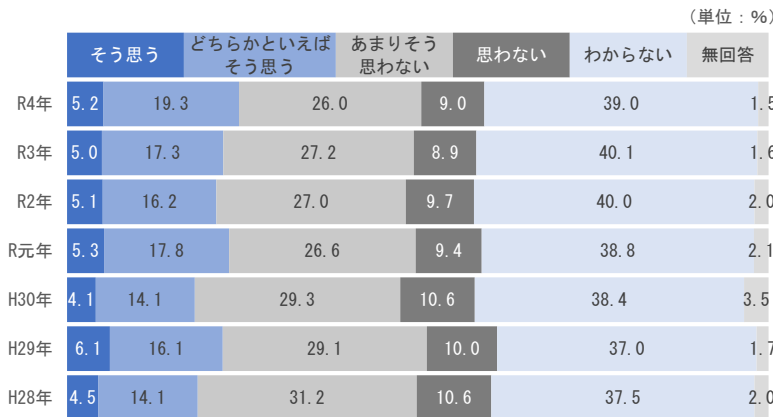
前計画「はちおうじ学園都市ビジョン」（計画期間：平成29年度（2017年度）～令和5年度（2023年度））では、「【基本理念】大学等と地域がともに発展するまちづくり」のもと、地域で学生が「学び」「育つ」、さらには学生が八王子の魅力を発見し、「働く」または「暮らす」場となることを目指し、7つの基本方針と全体の共通方針を定めました。

7年間の取組を振り返り、その成果を第2期として策定する本ビジョンに反映しています。

【アウトカム指標】

大学等の専門的知識や学生の活力がまちづくりに活かされていると思う市民の割合

目標値を概ね達成しました。このことから、連携協力事業実施の積み重ねによる成果が市民の実感として顕れたと考えられます。

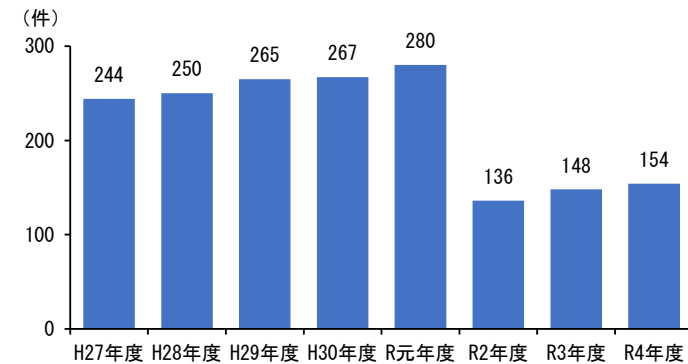


出典：市政世論調査

【アウトプット指標】

大学等と本市との連携協力事業数

令和元年度（2019年度）にかけて増加傾向、コロナ禍にボランティア関連事業の休止等に伴い減となりましたが、徐々に件数が回復しました。



出典：学園都市文化課調査

基本方針1 地域連携支援

重点取組 大学等が行う地域の人材と資源を活用した課題解決型学習など、実践的な教育の支援に重点をおいて、大学等と地域との連携を推進します。

- ・PBL（課題解決型学習）授業参加やインターンシップ・ヒアリングの受入、協働プロジェクトの実施を通して、地域の課題解決に取り組む教育の支援及び専門人材の育成に取り組むとともに、地域課題の解決や学生に地域への関心を喚起するきっかけづくりを進めました。

調整中
(事例紹介)

調整中
(コラム)

基本方針2 産学公連携支援

重点取組 理系・文系の幅広い分野の調査・研究と企業などを結びつける支援に重点を置いて、産学公連携を推進します。

- ・市主催イベントや八王子商工会議所所掌「出前研究室」（大学コンソーシアム八王子で参加校を増やし、事業充実を図った）でのコーディネートなどを通して、産学公連携のネットワーク強化を図りました。
- ・「八王子市産学連携による研究・開発費等補助金」や「経営力強化補助金」、「八王子市新産業創出センター」の開設による新技術・新製品の開発支援を通して、産学公連携による共同研究・開発を支援しました。

調整中
(事例紹介)

調整中
(事例紹介)

基本方針3 学生活動支援

重点取組 学生が自ら企画・実施する課外活動と地域を結びつける支援に重点をおいて、学生活動を支援します。

- ・「市民企画事業補助金」や大学コンソーシアム八王子「学生企画事業補助金」で学生活動の振興を図りました。
- ・市や地域の活動団体によって、学生ボランティア活動の充実が図られました。
- ・市では学生が参加可能なボランティア活動について情報を集約し、大学等への提供及び活動実施のサポートを行いました。

調整中
(事例紹介)

基本方針4 学生の就職支援

重点取組 地域企業と連携した学生のキャリア育成の支援に重点をおいて、学生の就職を支援します。

- ・多摩地域合同の就職説明会や「はちおうじ就職ナビ」、「はちおうじ若者奨励金（令和4年度（2022年度）受付終了）」や「八王子市定住促進奨学金返還支援事業」の利用促進を通じて地域企業と学生のマッチングを図りました。
- ・大学コンソーシアム八王子「学生発表会」で市内企業の魅力を学生にPRする機会を設けました。

調整中 (事例紹介)

基本方針5 生活環境支援

重点取組 学生の生活環境の向上と、大学等に関わる都市基盤の整備に重点をおいて、学生と大学等を取巻く環境の整備を推進します。

- ・消費生活や健康に関してなど、学生の安心安全な生活環境を整えるための意識啓発をポスター、チラシの配布等を通して行いました。
- ・学生を含む市民の利便性の向上のため、シェアサイクル実証実験やバスロケーションシステム、ノンステップバス等の導入促進を通じた公共交通機関の充実を図りました。

調整中
(事例紹介)

基本方針6 留学生支援

重点取組 地域社会への参加と交流する機会の創出に重点をおいて、留学生を支援します。

- ・「外国人留学生奨学金（令和2年度（2020年度）受付終了）」や「助っ人留学生制度」で、外国人留学生ならではの視点や語学力などの能力が活かされることで地域活性化が図られるように、外国人留学生と地域とのマッチングを進めました。
- ・地域のお祭りや小学校授業への外国人留学生の参加を支援しました。
- ・「在住外国人サポートデスク」や「留学生のための住居賃貸代行保証料補助金」、大学等担当者間の情報共有の充実を通して外国人留学生の生活を支援しました。
- ・日本語能力試験受験料の補助や、イベント実施による市内企業の紹介を通して、外国人留学生の進路支援を行いました。

調整中 (事例紹介)

基本方針7 生涯学習推進

重点取組 様々な市民のニーズに対応した学習機会の提供に重点をおいて、生涯学習を推進します。

- ・八王子学園都市大学（いちょう塾）は、最大で年間約300講座を開講し、約7,000人が受講するなど、広く大学等の学びを提供しました。
- ・「八王子リカレント教育支援アプリ（はちりカ）」で講座情報の周知活動を行い、社会人を含む、より多くの市民の学習機会の確保に努めました。
- ・八王子に関連した提供講座を充実させるとともに、大学等図書館に要望に応じて資料提供を行いました。
- ・大学等施設の開放状況の公開などを通して市民の生涯学習の推進を図りました。

調整中
(事例紹介)

共通方針 学園都市ブランドの強化

重点取組 市民、学生、教職員それぞれが、八王子に大学等が立地する魅力を感じられるよう、「学生が育つまち」としての情報発信に重点をおき、学園都市ブランドの強化に取り組めます。

- ・「八王子市シティプロモーション基本方針」及び「八王子市まち・ひと・しごと創生総合戦略」において「20～30代の若年層と大学生」を重点ターゲットと位置づけて、本市への誇りと愛着の醸成につながるよう戦略の方向性を定め、情報発信などを行いました。
- ・「大学等の高度な専門的知識や学生の活力がまちづくりに活かされていると思う市民の割合」（市政世論調査）は、平成27年度（2015年度）の18.6%から令和4年度（2022年度）には24.5%に上昇しました。

調整中 (事例紹介)

3

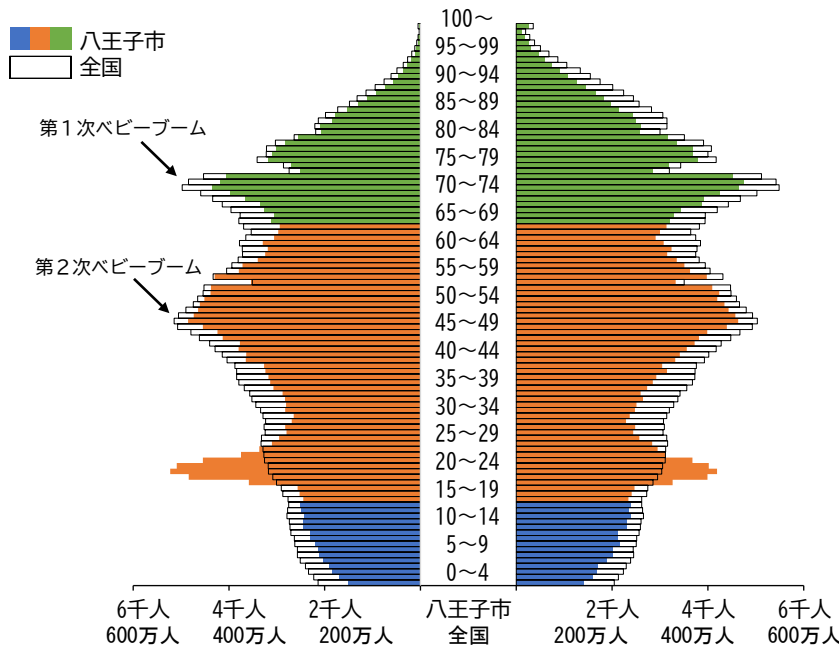
八王子市の現状

「学園都市八王子」における人口動態の特徴として、大学等の入学・卒業年代の転入・転出がともに著しく多い点が挙げられます。この傾向は前計画「はちおうじ学園都市ビジョン」策定時から大きく変化していません。

(1) 年齢別人口構成

第1次・第2次のベビーブーム世代の人口集中に加え、本市の学園都市という特徴を表して、10代後半から20代前半世代にも人口集中が存在しています。

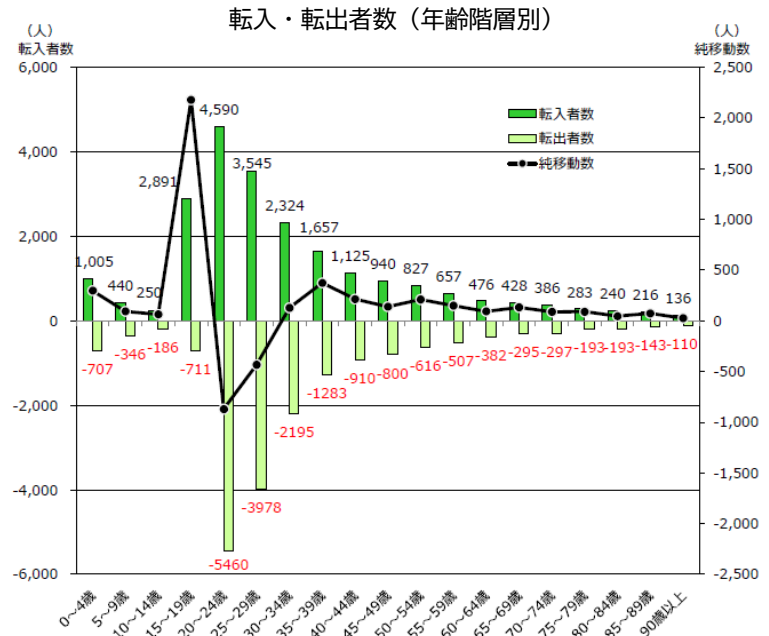
年齢別人口構成（八王子市と全国と比較）



出典：令和2年国勢調査をもとに作成

(2) 転入・転出者数

10代後半に大幅な転入超過となっています。一方、20~24歳と25~29歳は転出超過となっています。



出典：八王子市人口ビジョン

4 大学等の現状

(1) 大学等(八王子(多摩等)キャンパス) 学生数の推移

令和5年度(2023年度)現在、市内には21校の大学・短期大学・高等専門学校が立地し、約9万人の学生が学んでいます。

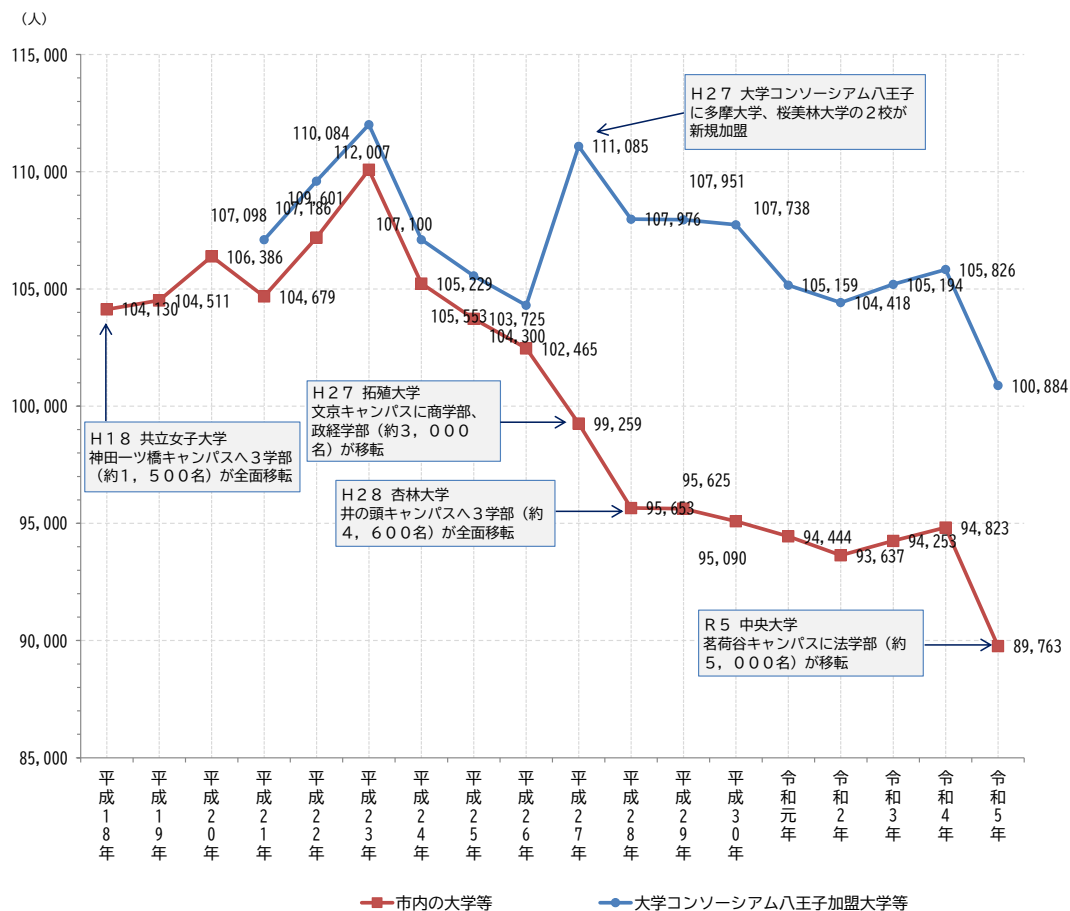
また、本市が加盟、その活動を支援する、大学コンソーシアム八王子に加盟する25校(上記21校を含む)では、約10万人の学生が学んでいます。

八王子(多摩等)キャンパスにおける学生数は減少傾向にあり、今後の18歳人口の減少も鑑みると大幅な増加は見込まれないことが予想されます。

(2) キャンパス整備の流れ

本市への大学等立地は昭和30-60年代を中心として進められ「学園都市八王子」が形成されてから40年以上が経過しています。

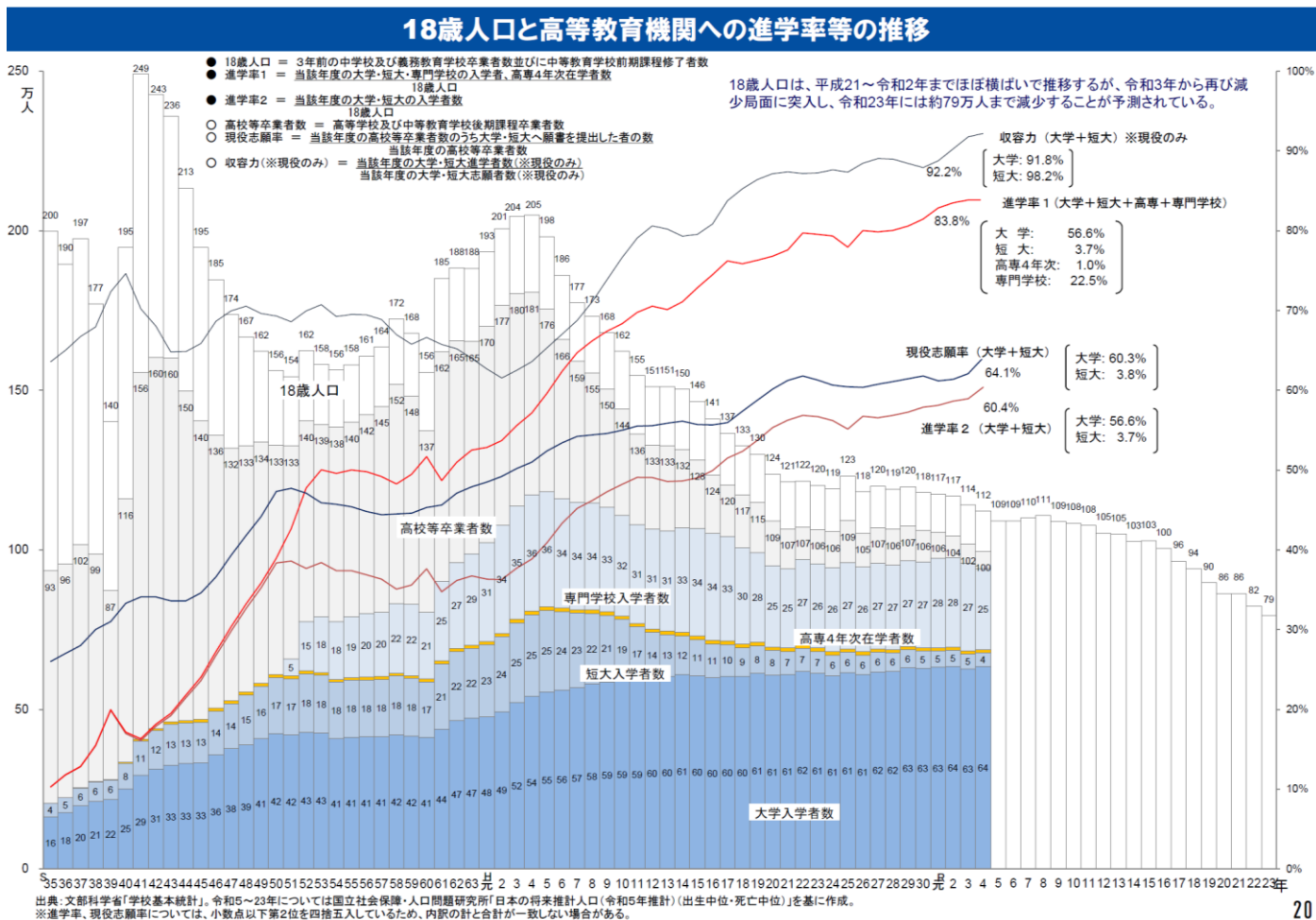
そのため、市内大学等では、老朽化した施設の建て替え等をきっかけとしたキャンパスの再構築が進んでいます。



出典：大学コンソーシアム八王子調査

2050年の大学進学者数

急速な人口減少に伴い、大学進学率の伸長を加味したとしても、2050年の大学進学者数は全国で約48万人と推計され、外国人留学生比率が現状のまま（3.07%）であった場合でも、現在の大学入学定員の規模が維持された場合には、定員充足率が約80%になると推計されています。



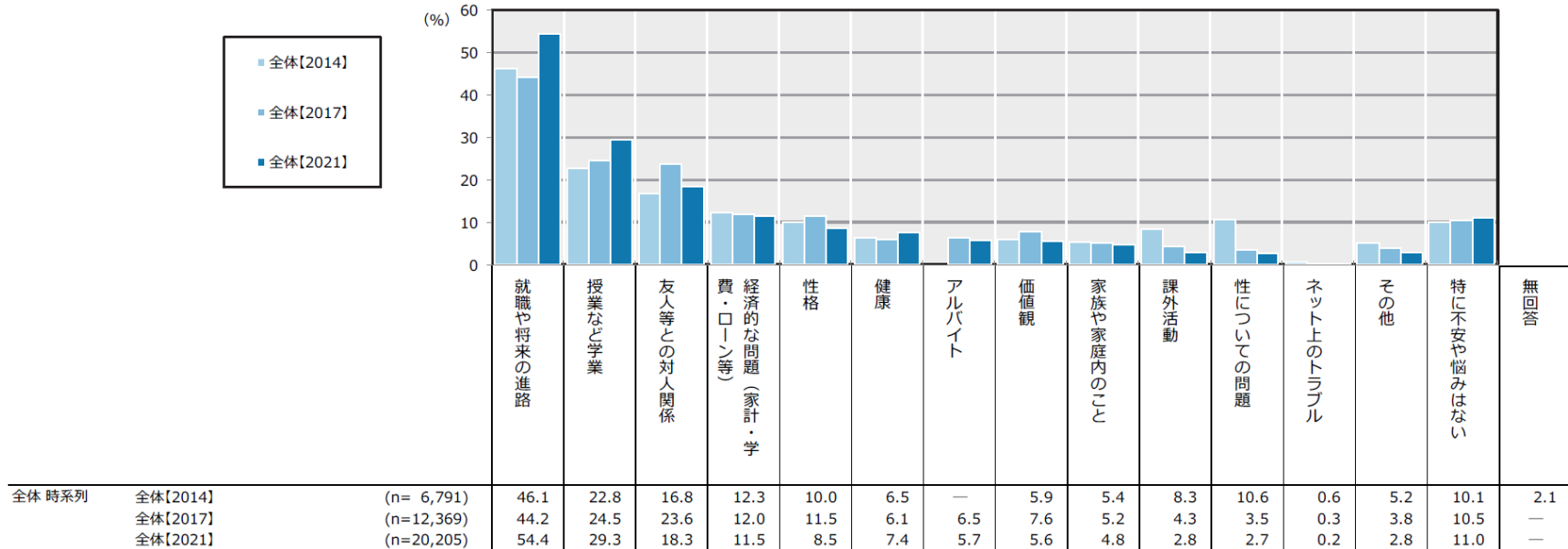
出典：中央教育審議会大学分科会（第174回）会議資料

5 学生の現状

現在の不安や悩みとして、半数以上の学生が「就職や将来の進路」を挙げています。また、就職内定率の推移をみると内定取得時期の早期化が進んでいることが分かります。

(1) 現在の不安や悩み

いま、あなたに不安や悩みがあるとすれば、それはどのようなものですか。(2つまで)



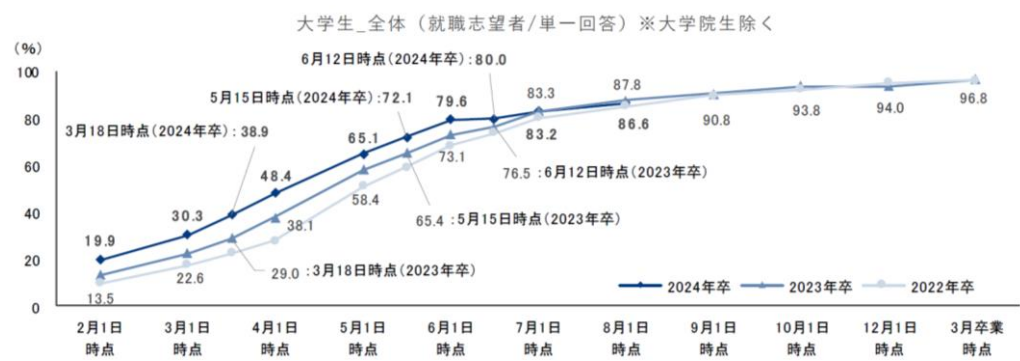
※「全体【2021】」で降順ソート

※「経済的な問題(家計・学費・ローン等)」は2021年文言変更、2017年までは「経済問題(家計・学費・ローン等)」

※「アルバイト」は2017年追加/「性についての問題」は2017年文言変更、2014年までは「異性問題」

出典：私立大学学生生活白書2022

(2) 就職内定率の推移



出典：(株)リクルート「就職プロセス調査(2024年卒)」「2023年8月1日時点 内定状況」

大学等における学び（正課教育）への満足度は上昇傾向にあり、大学等の「学修者本位の教育の実現」に向けた取組の推進やコロナ禍における授業のオンライン化による学習形態の変化が背景にあると考えられます。

(3) 正課教育満足度

【授業等、正課教育全体】について、満足度を教えてください。（1つだけ）

		よかった	よくなかった	どちらともいえない	無回答
●凡例					
全体【2017】	(n=12,369)	67.5%	4.6	27.9	
正課教育満足度・ 学生生活充実度別	正課教育満足度○学生生活充実度○ (n= 5,343)	89.2	0.9	10.0	
	正課教育満足度○学生生活充実度× (n= 1,038)	56.6	5.4	38.0	
	正課教育満足度×学生生活充実度○ (n= 3,614)	66.2	3.4	30.4	
	正課教育満足度×学生生活充実度× (n= 2,374)	25.4	14.4	60.2	

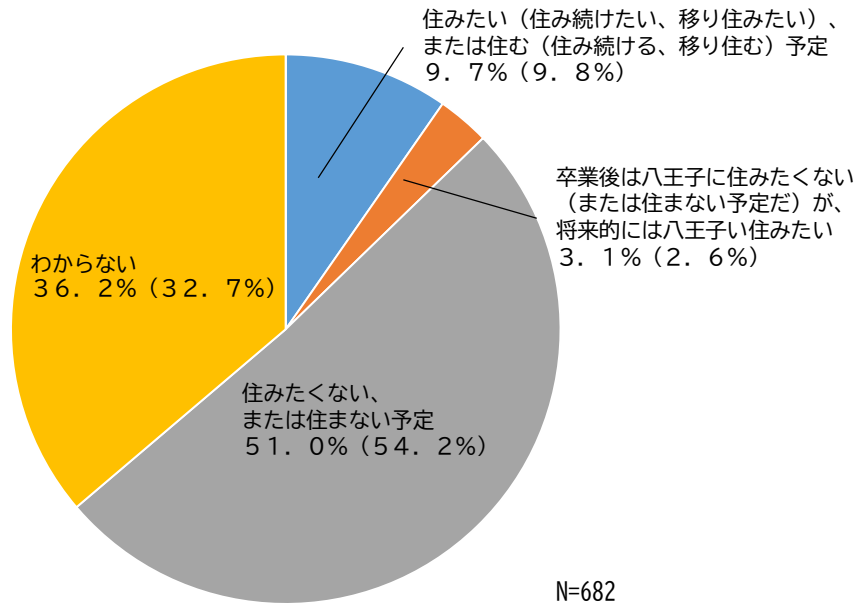
出典：私立大学学生生活白書2022

(4) 本市への定住意向 (第2期はちおうじ学園都市ビジョンアンケート調査 (P. ○参照))

卒業後の八王子市への定住意向は前回調査(八王子市学生意識・希望調査(平成27年度(2015年度)実施))と類似の結果となりました。

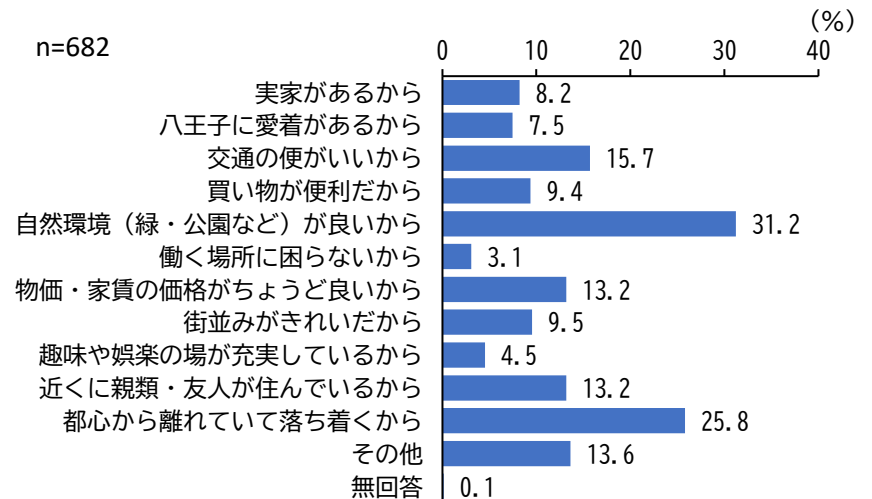
八王子市内に住みたい理由の内訳をみると、自然や交通などの環境面に関する点が多く挙げられています。なお、卒業後に八王子市内に「住みたい(住み続けたい、移り住みたい)、または住む(住み続ける、移り住む)予定」と回答した学生からは「趣味や娯楽の場が充実しているから」が最も多く、次いで「交通の便がいいから」が回答として挙げられました。

ア 卒業後に八王子市内に住みたいと思いますか、または住む予定ですか。【1つ選択】※()内は前回調査結果



イ 八王子市内に住みたい理由【3つまで選択】

「自然環境(緑・公園など)が良いから」が31.2%で最も多く、次いで「都心から離れていて落ち着くから」が25.8%、「交通の便がいいから」が15.7%となっています。

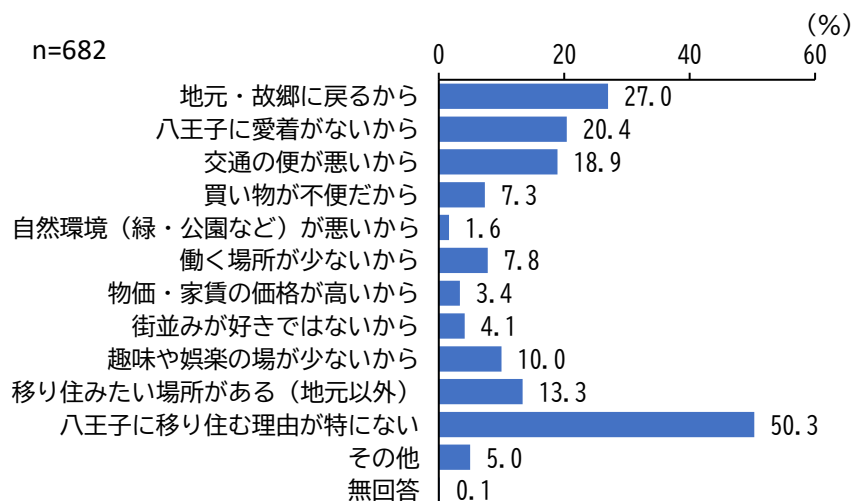


八王子市内に住みたくない理由の内訳をみると「八王子に移り住む理由が特にならない」「地元・故郷に戻るから」「八王子に愛着がないから」の割合が多く、特定の理由を持たない学生が多くいることが分かります。なお、卒業後に八王子市内に「住みたくない、または住まない予定」と回答した学生からも同項目の回答が多くありました。

背景には、新型コロナウイルス感染症の影響によりキャンパスの閉鎖や授業がオンライン化するなど、学生が八王子の地に来て学ぶ機会が少なくなったことにより、地域の活動などに触れ、愛着を持つきっかけが減少したことが推察されます。

ウ 八王子市内に住みたくない理由【3つまで選択】

「八王子に移り住む理由が特にならない」が50.3%で最も多く、次いで「地元・故郷に戻るから」が27.0%、「八王子に愛着がないから」が20.4%となっています。

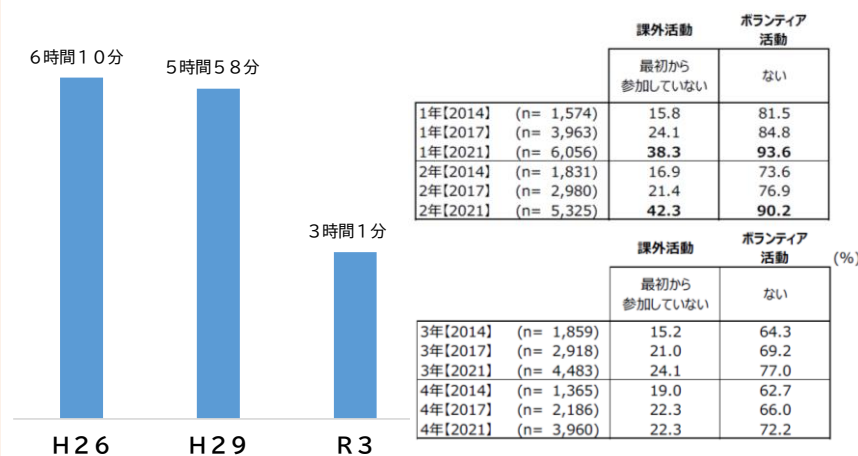


コラム

キャンパス滞在時間とボランティア活動

学生のキャンパス滞在時間は平成29年度（2017年度）調査と比較すると半減、またコロナ禍での入学生を主としてボランティア活動に参加していない学生数が大きく増加しており、新型コロナウイルス感染症の影響により様々な経験の場が失われたことが推察されます。

キャンパス滞在時間 (学年別傾向) 課外活動参加状況 (全体/単一回答)



出典：私立大学学生生活白書2022

調整中
(コラム)

第3章

ビジョンの全体像

1

基本理念・キャッチフレーズ

基本理念

大学等と地域がともに発展するまちづくり

本市は、大学等の行う高等教育の振興を通じて、大学等と地域が互いに交わり、支え合い、さらには、共創により新たな価値を創出することを通して、ともに発展するまちづくりの実現を目指します。

キャッチフレーズ

「まるごとキャンパス八王子」 ～学生、人材が「集う」まちに～

大学等と地域がともに発展するまちづくりを実現するためには、大学等が地域を実践の場として行う教育を支援し、地域の活性化につなげていくことが重要です。その結果、学生、市民が多様な地域の人材と資源との関わりを通じて「学び」「育つ」こととなります。さらには、地域で学ぶことを通じて、学生が八王子の魅力を発見し、将来のライフステージにおいて、本市が「働く」、「暮らす」、観光などで「訪れる」または地域と多様な形で「かかわる」場となることを目指します。

地域全体が学びの場となり、大学等と地域が連携し合う、「まるごとキャンパス八王子」～学生、人材が「集う」まちに～をキャッチフレーズとして推進します。

2

7つの基本施策

現状と課題を踏まえ、基本理念の実現を目指すために、7つの基本施策を定め、各種施策を体系的に推進します。

基本施策	2030年の目指す姿	施策の方向性
基本施策1 地域連携支援	大学等と地域が、課題と目標を共有し、ともに考え、解決に向けて主体的に取り組む関係性が築かれており、互いの発展に貢献している。また、地域での学びを通して、学生が主体性や課題解決の実践力を身に付けるとともに、地域への理解を深め、愛着が育まれている。	1 大学等と地域とのつながりづくり <<新規>>
		2 行政と大学等との共創の推進 <<新規>>
基本施策2 産学公連携支援	本市の多様な産業と大学等が組織単位で連携する関係性を築き、互いのリソース、ノウハウを持ち寄ることで新たなイノベーションを創出している。	1 大学等と市内企業との連携促進
		2 産学公連携によるイノベーション創出の支援
		3 キャンパスの再構築を契機とした産学連携と地域振興の促進に向けた支援 <<新規>>
基本施策3 学生活動支援	学生が地域を舞台とした様々な活動を通して地域住民と交流を持つことで「社会貢献意識・自己肯定感」を向上、「自己実現」を達成させ、地域の一員としていきいきと暮らし、地域に活力が生まれている。	1 地域で活動する学生の支援
		2 学生と地域活動を結ぶ機会の創出
		3 支援者間の接続の強化 <<新規>>
基本施策4 学生の就職支援	地域の学びや地域企業との交流を通じて学生が自身のキャリア形成に有益な体験を得て、将来のライフステージで本市で働くこと、暮らすことに魅力を感じている。	1 地域資源を活かした連携の推進による大学等のキャリア教育の支援 <<新規>>
		2 市内企業の魅力の発信
		3 市内就職及び定住の促進 <<新規>>
基本施策5 生活環境支援	学生が安全安心に暮らし、社会とのつながりを持ちながら自分らしいみちを歩める場所として本市に魅力を感じている。	1 安全・安心な学生生活を守る環境づくり
		2 学生の居場所づくり <<新規>>
		3 大学等周辺部の基盤整備の促進
基本施策6 留学生支援	外国人留学生在が安全安心に暮らしており、また多世代との交流など地域活動に参画することによって、国籍、民族、文化の違いを互いに認め合い、助け合い、活かし合いながら、ともに暮らす多文化共生のまちづくりが実現している。	1 外国人留学生への生活支援
		2 外国人留学生による地域活性化
基本施策7 生涯学習推進	各ライフステージにあわせて、大学等が学びを得る場となり、生涯にわたり切れ目なく学べる環境が整備されている。	1 多様な学びの環境づくり
		2 自己実現のための学びの支援
		3 大学等施設における市民の生涯学習の推進

「地域自治」と「共創」

本市では、令和5年（2023年）3月に基本構想・基本計画「八王子未来デザイン2040」を策定し、3つの重点テーマである「未来の主役づくり」「未来へのつながりづくり」「未来に続く都市づくり」を推進する取組を進めています。

また、前基本構想・基本計画「八王子ビジョン2022」の柱である「人とひととの支えあい、つながり」と市民・行政の互いの役割と責任ある行動による「協働」を継承しつつ、より発展的に捉えた「地域自治」と「共創」を「未来を拓く原動力」として掲げました。

この方針と連動したものとなるよう、本ビジョンにおいては、基本理念「大学等と地域がともに発展するまちづくり」の実現に向け、大学等がまちづくりにおける重要なパートナーであるという視点のもと、これらのキーワードを原動力として取組を推進していきます。

「地域自治」

地域が主体的に地域の魅力や課題を把握し、その向上や解決に向けて、地域の多様な活動団体や住民同士、地域と行政が協働していくための仕組みを構築する「地域づくり」を推進し、地域のことを自分たちで考え、行動することでみんなの幸せを実現するとしています。

「共創」

複雑化する社会課題に対応し続けるために、企業、大学などとの対話と共感を起点に、とも（共）に考え、創造していく仕組みを市が主体的に構築し、地域課題、社会課題のソリューションを創出する「共創」を継続できる社会を目指すとしています。

（例）大学等との共創により取組が期待されるテーマ

DX化の推進

八王子市デジタルトランスフォーメーション（DX）推進計画

社会人の学び直し （リカレント教育）の充実

八王子市生涯学習プラン

カーボンニュートラルの達成

八王子市地球温暖化対策地域推進計画

文化財の保存と活用

八王子市文化財保存活用地域計画

中学校部活動の地域移行

みんなが集う学校の未来
＜八王子市教育委員会指針＞

各地域の魅力を 活かしたまちづくり

八王子市地域づくり推進基本方針

3

指標

学園都市づくり施策における数値目標を、施策の実施による直接の結果をアウトプット指標、その結果、本市にもたらされる効果をアウトカム指標として、「八王子未来デザイン2040」及び「八王子市経営計画（重点事業編）」で定めています。

また、「八王子未来デザイン2040」のうち、学園都市づくりに関連する施策に係る指標を参考指標として、あわせて記載しています。

【アウトカム指標】市民の実感割合の推移をもとに、施策の効果検証を図ります。

重要業績評価指標（KPI）	基準値 （令和4年度（2022年度））	目標値 （令和12年度（2030年度））
大学等や学生がまちづくりにかかわっていると実感している市民の割合（%） ※出典：市政世論調査	24.5%	50.0%

（「八王子未来デザイン2040」学園都市づくりの推進 目標設定）

【アウトプット指標】大学等と本市との連携・協力事業数を指標として定めることで、行政が率先して学園都市づくりを推進します。

重要業績評価指標（KPI）	基準値 （令和3年度（2021年度））	目標値 （令和12年度（2030年度））
大学等と本市との連携・協力事業数（件／年間） ※出典：学園都市文化課調査	148件	256件

（「八王子市経営計画（重点事業編）」学園都市づくりの推進 評価指標）

【参考指標】「八王子未来デザイン2040」における学園都市づくり関連施策に係る指標

重要業績評価指標（KPI）	基準値	目標値 (令和12年度（2030年度）)	関連する主な基本施策
学校と地域が連携して行う取組数	38,149件 (令和3年度（2021年度）)	62,700件	基本施策1 地域連携支援 基本施策3 学生活動支援
産産・産学連携による共同研究開発数	— 件	109件（累計）	基本施策2 産学公連携支援 基本施策4 学生の就職支援
地域に居場所があると感じている子ども・若者の割合	子ども 88.5% 若者 64.7% (令和4年度（2022年度）)	子ども 90% 若者 75%	基本施策3 学生活動支援 基本施策5 生活環境支援
八王子市を「居心地の良い場所」「訪れて楽しい場所」と感じている市民の割合	82.1% (令和4年度（2022年度）)	90%	基本施策1 地域連携支援 基本施策5 生活環境支援
公共交通の利便性の満足度	64.5% (令和4年度（2022年度）)	75%	基本施策5 生活環境支援
外国人と交流したいと思う市民の割合	52.7% (令和4年度（2022年度）)	65%	基本施策6 留学生支援
生涯学習活動をしている市民の割合	55.0% (令和4年度（2022年度）)	80%	基本施策7 生涯学習推進

第4章

基本施策

基本施策 1 地域連携支援

背景

- 1 国の「第4期教育振興基本計画」では、学習者を主体として、他者との協働や課題解決型学習（PBL）などを通じ、深い学習を体験し、自ら思考することを重視する考え方は、高等教育においても重要であり、大学等における課題解決型学習（PBL）などによるアクティブラーニングの充実に取り組む必要があるとしています。
- 2 「八王子未来デザイン2040」では、多様かつ複雑化している地域課題を地域の実情に合わせて解決するために、地域の多様な活動団体や住民同士、地域と行政が協働していくことを目的とした中学校区を基礎単位とする仕組みを構築する「地域づくり」を進め、地域のことを自分たちで考え、行動することで、みんなの幸せを実現していく「地域自治」の推進を掲げています。

現状

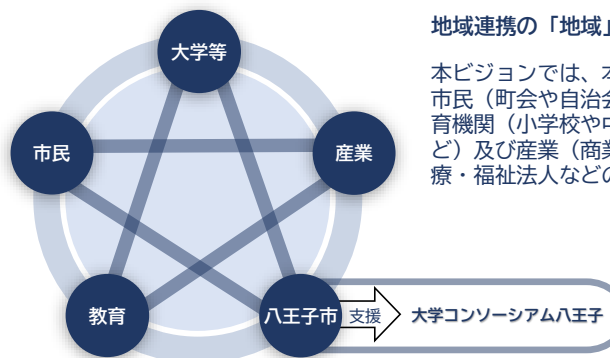
- 1 本市には、学生が地域で活動するうえで支援者・協力者となり得る、町会・自治会やNPO法人が数多く存在します。
- 2 第2期ビジョンアンケートより
 - (1) 【大学等調査】 自校と地域との関係性について理想とする姿として「地域のまちづくりに、研究成果が反映できている」と「地域をフィールドに実践的な教育が行われている」が最も多く、次いで「地域で存在感が高まっている」が多く挙げられています。
 - (2) 【学生調査】 八王子地域の人材や資源を活用した学びについて、3割の学生が「地域課題の解決策を考える授業（研究）」を受けてみたいと回答しています。また、授業や課外活動などで取り組んでみたい行政課題では「防災対策」「環境」「地域活性化」が上位に挙がっています。

課題

- 1 多様化、複雑化する地域課題・社会問題に対応するために、地域住民・行政・大学等・企業などの様々な主体が、目標（課題）を共有し、組織間で持続的に連携していく関係構築が必要です。
- 2 大学等が行う教育活動における、地域をフィールドとした展開を支援することが求められています。
- 3 大学等有する専門知識、学生の発想を活かしたまちづくりを更に推進するとともに、その成果を広く発信していく必要があります。

2030年の目指す姿

大学等と地域が、課題と目標を共有し、ともに考え、
 解決に向けて主体的に取り組む関係性が築かれており、
 互いの発展に貢献している。また、地域での学びを通
 じて、学生が主体性や課題解決の実践力を身に付ける
 とともに、地域への理解を深め、愛着が育まれている。



地域連携の「地域」とは？

本ビジョンでは、本市を構成する八王子市、市民（町会や自治会、NPO法人など）、教育機関（小学校や中学校、高等学校、大学など）及び産業（商業、農業、観光産業、医療・福祉法人などの市内企業等）を指します。

施策の方向性

1 大学等と地域とのつながりづくり <<新規>>

大学等を含む多様な主体が互いに連携しあうための共創の場づくりを進めることにより、大学等の地域資源を活用した教育を支援するとともに、学生の地域での学びを支援します。

【主な取組】

- 1-1-1 大学コンソーシアム八王子のさらなる活性化による加盟機関（大学等・市民・経済団体・企業・行政）間の連携強化
- 1-1-2 「地域づくり」の取組における、地域づくり推進会議と大学等との連携促進

2 行政と大学等との共創の推進 <<新規>>

行政では、大学等を「共創」の重要なパートナーであるという認識のもと、積極的に連携を図り、地域課題の解決につなげることで、大学等の存在により地域が発展していると実感できるまちづくりを推進していきます。

【主な取組】

- 1-2-1 地域の課題解決に取り組む教育（課題解決型学習（PBL）授業など）への支援
- 1-2-2 大学等との連携・協働事業実施の促進
- 1-2-3 大学等との取組成果の積極的な情報発信

調整中
 (コラム)

基本施策2 産学公連携支援

背景

- 1 文部科学省・経済産業省「産学官連携による共同研究強化のためのガイドライン【追補版】」では、産学官連携がイノベーションの創出による新たな価値の創造に貢献していくためには、研究者同士の個人的な連携にとどまるべきではなく、大学等と企業が互いを対等なパートナーとして認識し、ともに新たな価値の創造を志向した「組織」対「組織」の本格的な連携を行うことが重要となるとしています。
- 2 「八王子市産業イノベーションプラン」では、市域を超えた多様な組織・人材の交流と知識・技術の結合により、成長産業が創出されていることをあるべき姿に掲げ、大学等と本市の多様な産業との連携を推進するとしています。

現状

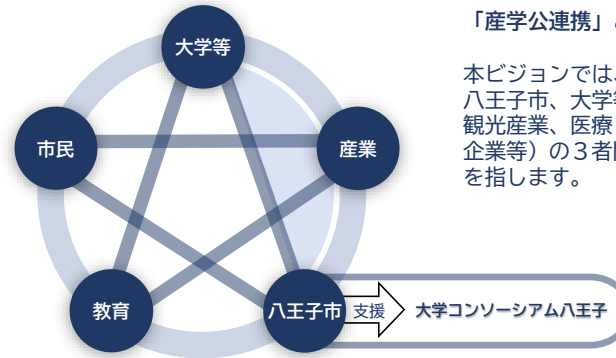
- 1 本市には、ものづくり企業をはじめ、商業、農業、観光産業、医療・社会福祉法人が多数所在するなど、様々な産業が集積しています。
- 2 第2期ビジョンアンケートより
 - (1) 【大学等調査】 今後、産業界と連携して推進したい取組として「産業界の課題解決に授業などで教員や学生が取り組む（相談・コンサルティング等を含む）」「教員や学生と産業界での共同研究・共同開発」「学生の就職活動支援に産業界が参加する（求人票の提出や企業説明会への参加を含む）」が上位に挙がっています。
 - (2) 【企業調査】 8割の企業が大学等と産学連携に取り組んだことが「ない」と回答しています。理由としては、「興味はあるがきっかけがないため」が最も多く、次いで「産学連携に取り組む余裕（人材、資金等）がないため」が多くなっています。また、取り組んだことのある企業が「相手先を探した手段」は「教員との個人的な付き合い」と「独自にアプローチ」が最も多くなっています。

課題

- 1 大学等と市内企業との間における、ニーズ・シーズに関する情報共有や組織単位での連携が充実するよう、双方をつなぐマッチング、コーディネート機能の強化が必要です。
- 2 市内企業が直面する、技術・製品・サービス開発等に関する課題を解決し、新たなイノベーションを創出していくためには大学等が有する知的財産を活かした共同研究、共同開発が活発に行われるための支援が必要です。

2030年の目指す姿

本市の多様な産業と大学等が組織単位で連携する関係性を築き、互いのリソース、ノウハウを持ち寄ることによって新たなイノベーションを創出している。



「産学公連携」とは？

本ビジョンでは、地域連携のうち特に八王子市、大学等、産業（商業、農業、観光産業、医療・福祉法人などの市内企業等）の3者間における連携のことを指します。

施策の方向性

1 大学等と市内企業との連携促進

大学等と市内企業との交流を通じて、共創のパートナーとしての関係性を築けるよう、連携の充実を図ります。

【主な取組】

- 2-1-1 大学コンソーシアム八王子のネットワークを活かした、大学等と市内企業の連携促進
- 2-1-2 公民共創プラットフォームへの大学等の参画支援 <<新規>>

2 産学公連携によるイノベーション創出の支援

大学等の知的財産、学術研究の成果が企業課題の解決に結びつき、社会への貢献に繋がるよう、共同研究・共同開発を支援します。

【主な取組】

- 2-2 市内企業と大学等や公設研究機関との産学連携による研究開発や高度専門人材育成の促進

3 キャンパスの再構築を契機とした産学連携と地域振興の促進に向けた支援 <<新規>>

大学等の施設更新や用地の再構築の機会を捉え、教育環境の充実や、大学等と市内企業及び研究機関等との産学連携を促進する施設整備等を支援するとともに、大学等用地を活用した市産業及び地域振興に資する施設立地について支援します。

【主な取組】

- 2-3 大学等のキャンパス・施設や周辺道路の新設、または整備時における情報共有などの協力

調整中
(コラム)

基本施策3 学生活動支援

背景

- 1 「八王子市生涯学習プラン」では、基本施策の1つに「学びから広がる地域づくり～いかす・つながる～」を掲げ、大学生等の若者が地域で活躍できる機会が充実し、地域が高めあって、協働している姿を目指しています。
- 2 「八王子市子ども・若者育成支援計画」では、若者の様々な活動を応援するため、企業や大学等、市民団体などとの連携を強化しボランティア活動など若者が活動の場を広げていけるよう支援していくことを掲げています。また、若者の提案を実現できるよう、若者の意欲ある活動への支援の推進に努めるとしています。

現状

- 1 本市では、社会福祉協議会や市民活動協議会などの地域活動支援機関が地域における学生を含む市民の活動を支援しています。
- 2 コロナ禍における行動制限の影響により、学生のボランティア参加率は減少傾向が続いています。
（（一社）日本私立大学連盟「私立大学学生生活白書2022」）
- 3 第2期ビジョンアンケートより
 - （1）【大学等調査】「学生活動を支援する上で地域（八王子市及びその周辺自治体の市域及びその市域内にある組織・団体・個人）に求める支援」として「大学等への（地域ニーズや支援事業などに関する）情報提供」が最も多く挙げられています。
 - （2）【学生調査】4割の学生が、ボランティア活動に参加したことが「ある」と回答しました。ボランティア活動に参加する目的としては、「社会勉強のため」が最も多く、次いで「困った人を助けたいから」「就職に役立てるため」が多くなっています。また、参加したいボランティア活動としては、「地域活性化」が最も多く、次いで「文化・スポーツ関係」「教育関係（小中高での活動など）」が多くなっています。

課題

- 1 地域活動に携わる行政、各種団体と大学等の担当窓口との間における、ニーズ・シーズに関する情報共有や組織単位での連携が充実するよう、双方をつなぐマッチング、コーディネートを図る仕組みづくりが必要です。
- 2 ボランティア活動に関心はあるものの、一歩踏み出せない、いわゆる「潜在的ボランティア層」への活動参加促進に向けた取組が必要です。
- 3 ボランティア活動に高い関心を持つ学生が、継続的・発展して地域貢献に取り組めるよう、活動に対する支援が必要です。

2030年の目指す姿

学生が地域を舞台とした様々な活動を通して地域住民と交流を持つことで「社会貢献意識・自己肯定感」を向上、「自己実現」を達成させ、地域の一員としていきいきと暮らし、地域に活力が生まれている。

施策の方向性

1 地域で活動する学生の支援

地域貢献の意欲を持つ学生が活動の場を広げるとともに、地域社会の一員として力を発揮できるよう支援します。

【主な取組】

- 3-1-1 学生が企画する地域活動への行政や地域活動支援機関による総合的な支援
- 3-1-2 地域での活動を通じた学生の居場所づくり 《新規》

2 学生と地域活動を結ぶ機会の創出

ボランティア活動に興味・関心のある学生が、新たに活動しやすく、また、志をともにする仲間を見つけ、より発展した活動に繋がる機会を提供します。また、活動の様子を広く周知することで、「潜在的ボランティア層」の活動参加を促します。

【主な取組】

- 3-2-1 教育現場などにおける学生の参加機会の積極的な創出
- 3-2-2 報告会など活動を知るきっかけづくりや活動する学生同士の交流の場の創出

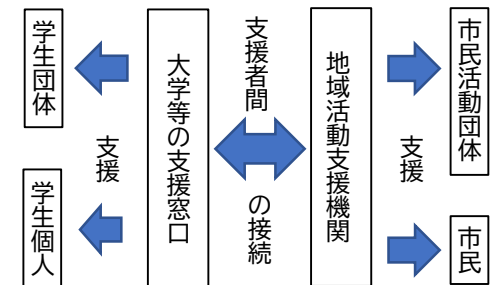
3 支援者間の接続の強化 《新規》

学生の参加を求める地域と学生とのマッチングが円滑に展開されるよう、大学等の学生活動を支援する窓口と地域活動支援機関との窓口間の接続を強化します。

【主な取組】

- 3-3-1 大学等と地域活動支援機関との相互の接続強化
- 3-3-2 大学コンソーシアム八王子の活性化による加盟機関（大学等・市民・経済団体・企業・行政）間の連携強化（1-1-1再掲）

調整中
(写真)



基本施策4 学生の就職支援

背景

- 1 経済産業省「未来人材ビジョン」では、次の社会を形づくる若い世代に対しては、「常識や前提にとらわれず、ゼロからイチを生み出す能力」「夢を手放さず一つのことを掘り下げていく姿勢」「グローバルな社会課題を解決する意欲」「多様性を受容し他者と協働する能力」といった、根源的な意識・行動面に至る能力や姿勢が求められるとしています。
- 2 「八王子市産業イノベーションプラン」では、施策の柱の1つに「産業人材の多様化と活用の促進」を掲げ、働く機会の創出として、市内中小企業へのインターンシップの促進（学生マッチング等）が示されています。

現状

- 1 企業説明会等への参加時期（ピーク）は、昨年度と比べ、卒業・修了前年度の9月以前に参加したとする回答割合が上昇しており、早期化が進行している傾向にあります。また就職活動に要する期間は、「9か月間程度以上」の割合が約4割と最も高く、年々その割合は高まってきており、長期化の傾向にあります。
（内閣府「学生の就職・採用活動開始時期等に関する調査（令和4年度）」）
- 2 学生が学生生活で抱える悩みとして「就職や将来の進路」が前回調査から10ポイント以上増加し1位となっています。また、インターンシップの参加率・参加意向は年々増加しています。
（（一社）日本私立大学連盟「私立大学学生生活白書2022」）
- 3 第2期ビジョンアンケートより
（1）【大学等調査】学生の就職活動に対する支援として、今後、特に力を入れたい取組は、「インターンシップメニューの充実」が最も多く、次いで「授業などにおけるキャリア教育の充実」、「企業説明会の充実」が多くなっています。

課題

- 1 今後の社会で求められる人材を輩出するために、本市が有する地域資源を活用した学びを通じて、問題解決能力を育めるよう、大学等が行う教育や学生が自主的に企画する活動に対する支援が必要です。
- 2 市内で働く人材を確保するため、在学期間において、地域企業の事業活動や魅力を知る機会を積極的に創出することが必要です。
- 3 市内で働く人材を確保するため、大学等を卒業後も継続して定住することや、転職の際に市内企業への就職や起業を促す取組が必要です。

2030年の目指す姿

地域の学びや地域企業との交流を通じて学生が自身のキャリア形成に有益な体験を得て、将来のライフステージで本市で働くこと、暮らすことに魅力を感じている。

施策の方向性

1 地域資源を活かした連携の推進による大学等のキャリア教育の支援 《新規》

本市の多様な地域資源との関わりの中で行う、地域連携、産学公連携による連携事業や、学生生活動を通して社会人として求められる能力や姿勢を身に着けるためのキャリア教育を支援します。

【主な取組】

- 4-1-1 地域への課題解決に取り組む教育（課題解決型学習（PBL）授業など）への支援（1-2-1再掲）
- 4-1-2 市内企業と大学等や公設研究機関との産学連携による研究開発や高度専門人材育成の促進（2-2再掲）
- 4-1-3 学生が企画する地域活動への総合的な支援（3-1-1再掲）

2 市内企業の魅力の発信

学生が希望する働き方を実現できるよう、就職の選択肢を広げるとともに、地域産業を支える人材確保を図ることを目的として学生に対する市内企業の魅力発信を支援します。

【主な取組】

- 4-2-1 インターンシップなどを通じた地域企業との交流機会の創出
- 4-2-2 大学等を対象とした地域企業の採用情報発信の支援

3 市内就職及び定住の促進 《新規》

学生、若者を対象として、大学等の卒業後などにおいて、本市を働く場所、住む場所として選ぶことにつながるような取組を進めます。

【主な取組】

- 4-3 卒業後の市内就職（転職・起業を含む）及び定住を促進する取組の推進

調整中
(写真)

基本施策5 生活環境支援

背景

- 1 消費生活や男女共同参画など、各分野別計画において、学生を含む若年層への教育、意識啓発を推進施策として位置づけています。
(例) 第3期消費生活基本計画、男女が共に生きるまち八王子プラン(第3次)2019改定版、八王子市再犯防止推進計画、八王子市自殺対策計画、第4期八王子市保健医療計画
- 2 「八王子市交通マスタープラン(第3次八王子市総合都市交通体系整備計画)」では、将来交通のイメージの中で、目指す姿として通学に利用する公共交通機関の混雑軽減と利便性の向上を掲げています。

現状

- 1 令和4年(2022年)4月1日から民法上の成年年齢が20歳から18歳に引き下げられ、18歳、19歳にこれまで認められていた未成年者取消権が認められなくなりました。国では、関係省庁が連携して消費者教育に関する取組を推進しています。
- 2 第2期ビジョンアンケートより
 - (1) 【大学等調査】学生にとって八王子地域がどのようなまちであることを期待するかについては、「安心・安全に暮らせるまち」が最も多く挙げられています。
 - (2) 【学生調査】7割の学生が、消費生活(詐欺被害や契約上のトラブルなど)、健康(アルコールや喫煙に関する内容を含む)、性に関すること(LGBTQやハラスメントなど)について相談できる人が「いる」と回答しています。このうち、相談先として思い浮かぶ相手としては、いずれも「家族」「友人(先輩後輩を含む)」という回答が多くなっています。一方、6割の学生が市役所の相談窓口で知っているものでは、「どれも知らない」と回答しています。

課題

- 1 学生が安全、安心な生活を送れるよう、犯罪被害防止、健康づくり、保健衛生、交通安全などの分野において、学生が知識・理解を深められるよう、行政が取組む必要があります。
- 2 学生が、ひとりで不安や悩みを抱え込まないよう、他者とのつながりを感じられる居場所づくりや相談支援の充実が必要です。
- 3 通学の利便性、安全性の向上や大学等の施設整備が適切な形で行われるよう、支援する必要があります。

2030年の目指す姿

学生が安全安心に暮らし、社会とのつながりを持ちながら自分らしいみちを歩める場所として本市に魅力を感じている。

施策の方向性

1 安全・安心な学生生活を守る環境づくり

学生が地域社会において安心して生活できるよう環境を整えます。

【主な取組】

- 5-1-1 消費生活や、交通安全、健康づくりや食育など、学生生活で役に立つ情報の発信や普及・啓発活動の実施
- 5-1-2 様々な生きづらさを抱える学生への支援
- 5-1-3 学生が住む場所として魅力を感じるような市街地環境の形成

2 学生の居場所づくり <<新規>>

地域が学生にとって居場所と感じられる場所となることを目指して、取組を進めます。

【主な取組】

- 5-2-1 学生が充実した生活を送るための、一人ひとりに寄り添った支援や情報の提供
- 5-2-2 地域での活動を通じた学生の居場所づくり（3-1-2再掲）

3 大学等周辺部の基盤整備の促進

公共交通機関の利便性向上や大学等の施設整備に関わる支援を進めます。

【主な取組】

- 5-3-1 交通の利便性向上
- 5-3-2 大学等のキャンパス・施設や周辺道路の新設、または整備時における情報共有などの協力（2-3再掲）

調整中
(写真)

基本施策 6 留学生支援

背景

- 1 教育未来創造会議「未来を創造する若者の留学促進イニシアティブ<J-MIRAI>」（第二次提言）では、2033年までの目標として指標を以下のとおり設けて進捗状況のフォローアップを行うとしています。
 - (1) 日本人留学生数（コロナ前：17.5万人）及び外国人留学生数（コロナ前：31.2万人）をともに38万人に増
 - (2) 高等教育機関卒業・修了後の外国人留学生（国内進学者を除く。）の国内就職率（平成30年（2018年）約48%から令和2年（2020年）に約40%まで減少）を60%に増
- 2 在留資格が「留学」の外国人市民は3,349人（令和4年12月末）で、10年前と比較し、約1.7倍になっています。外国人留学生を受けて入れている大学等も17校あるほか、大学等への進学を目指す外国人留学生を対象とした日本語学校の数も増えています。

現状

- 1 「第2期八王子市多文化共生推進プラン」では、基本目標の1つに「外国人市民も安心して暮らせるまち」を掲げ、外国人留学生への生活支援や外国人留学生による地域活性化を推進しています。令和3年（2021年）には、外国人留学生支援の事業を見直し、それまでの大学コンソーシアム八王子に加盟している大学等に在籍する留学生に加え、日本語学校や専門学校等に在籍する留学生まで支援対象を広げたほか、留学生のための生活ガイドの作成・配布や住居賃貸代行保証料等の補助金制度、地域活動への参加促進など、より生活に密着した支援を行っています。
- 2 第2期ビジョンアンケートより
 - (1) 【大学等調査】留学生支援で力を入れたいことは、「就職支援」と「日本文化の体験」が最も多くなっています。留学生支援での課題は、「外国人留学生の相談（体調や生活のことなど）受付窓口」が最も多く、次いで「学内での日本人学生や教職員とのコミュニケーション」、「文化の違いなどを原因とした地域住民とのトラブルの発生」となっています。

課題

- 1 今後、本市でさらに増えることが見込まれる外国人留学生が、安心安全に暮らせるための生活支援の充実が必要です。
- 2 小中高の教育現場や地域活動など、学校生活以外での学びや交流機会の充実が必要です。

2030年の目指す姿

外国人留学生在が安全安心に暮らしており、また多世代との交流など地域活動に参画することによって、国籍、民族、文化の違いを互いに認め合い、助け合い、活かし合いながら、ともに暮らす多文化共生のまちづくりが実現している。

施策の方向性

1 外国人留学生への生活支援

外国人留学生在の安心安全な学生生活を守る環境づくりを進めるとともに、日本国内での就職を希望する学生を支援します。

【主な取組】

- 6-1-1 住居確保や日本語学習に対する支援
- 6-1-2 日本での生活に必要な情報の発信
- 6-1-3 多言語による窓口対応、相談事業の充実
- 6-1-4 外国人留学生在の進路支援

2 外国人留学生による地域活性化

外国人留学生ならではの視点や能力を活かして地域活性化を図るとともに、留学生生活が充実するよう、地域活動への参画を促進します。

【主な取組】

- 6-2-1 地域活動と留学生のマッチング
- 6-2-2 日本人学生や外国人学生との交流などを通じた児童・生徒への豊かな学びの提供

調整中 (写真)

調整中
(コラム)

基本施策7 生涯学習推進

背景

- 1 国では、文部科学省・厚生労働省・経済産業省の連携のもとで、コロナ禍における社会情勢等を踏まえた、社会のニーズに対応したリカレント教育の基盤整備や産学連携による実践的なプログラムの拡充等による出口一体型リカレント教育を推進することにより、誰もがいくつになっても新たなチャレンジができる社会の構築を目指しています。（「令和4年度職業実践力育成プログラム及びキャリア形成促進プログラム実施機関向けリカレント教育説明会資料」抜粋）
- 2 「八王子市生涯学習プラン」においても、基本施策の1つに「誰もが学べる環境づくり～まなぶ～」を掲げ、誰もが、いつでも、どこでも、学べる環境で、生涯にわたり多様な学びに取り組んでいる姿を目指すとしています。

現状

- 1 市政世論調査（令和4年（2022年）実施）では、何らかの生涯学習活動に取り組んでいる割合は、平成28年（2016年）の61.9%から減少傾向に、令和4年（2022年）には55.1%となっています。また、取り組んだ生涯学習活動の中でも「学校（高等・専門・各種学校、大学、大学院など）の正規課程での学習」は3.6%でした。
- 2 八王子学園都市大学「いちよう塾」では、大学コンソーシアム八王子加盟25校などから提供される年間約300講座を開講しており、令和4年度（2022年度）末時点で累計13万人以上が受講しています。
- 3 第2期ビジョンアンケートより
 - （1）【大学等調査】地域住民を対象とした講座を開講する場合の課題として「周知」が挙げられています。
 - （2）【企業調査】大学等が開講する講座に対して期待することは「社員が、より専門性の高い知識を得ることができる」が最も多く挙げられています。
 - （3）【小学校・中学校調査】大学等との連携で推進したいこととして、「留学生と児童生徒の交流機会・場所の増加」、「総合的な学習の時間や、ニーズに応じた特別授業やワークショップの提供等」、「クラブ活動・部活動で大学等（教員・学生）に協力を得る」が上位に挙げられています。
 - （4）【高等学校調査】「総合的な探求の時間や、ニーズに応じた特別授業やワークショップの提供等」、「生徒へのキャリア教育・進路指導（大学進学を含む）を大学等と連携して行う」が上位に挙がっています。

課題

- 1 「学園都市」という本市の特性を活かし、世代を問わず、大学等の特色を活かした学習の機会など、全てのライフステージに合わせた生涯学習を展開していく必要があります。

各ライフステージにあわせて、大学等が学びを得る場となり、生涯にわたり切れ目なく学べる環境が整備されている。

施策の方向性

1 多様な学びの環境づくり

小中高大連携や大学間連携を推進し、児童・生徒・学生が大学等の特色ある多様な「知」に触れることのできる環境づくりを進めます。

【主な取組】

- 7-1-1 日本人学生や外国人学生との交流などを通じた児童・生徒への豊かな学びの提供（6-2-2再掲）
- 7-1-2 高大接続による高校生の課題の発見と解決に向けた主体的・協働的な学びの推進
- 7-1-3 単位互換制度等による多様な学びの機会の提供

2 自己実現のための学びの支援

大学等での学びを得る機会を広く創出することで、社会人の学び直し（リカレント教育）や健康寿命の延伸につながる生涯学習の取組などを促進します。

【主な取組】

- 7-2-1 社会人の学び直し（リカレント教育）を支援するための大学等との密な相互連携
《新規》
- 7-2-2 市民への大学等での学びの機会の提供

3 大学等施設における市民の生涯学習の推進

大学等施設（図書館施設や運動施設など）の市民利用に関する情報提供を行うことで、市民の生涯学習活動の充実を図ります。

【主な取組】

- 7-3 大学等の施設開放状況に関する情報集約と市民への情報提供

調整中
(写真)

調整中
(コラム)

第5章

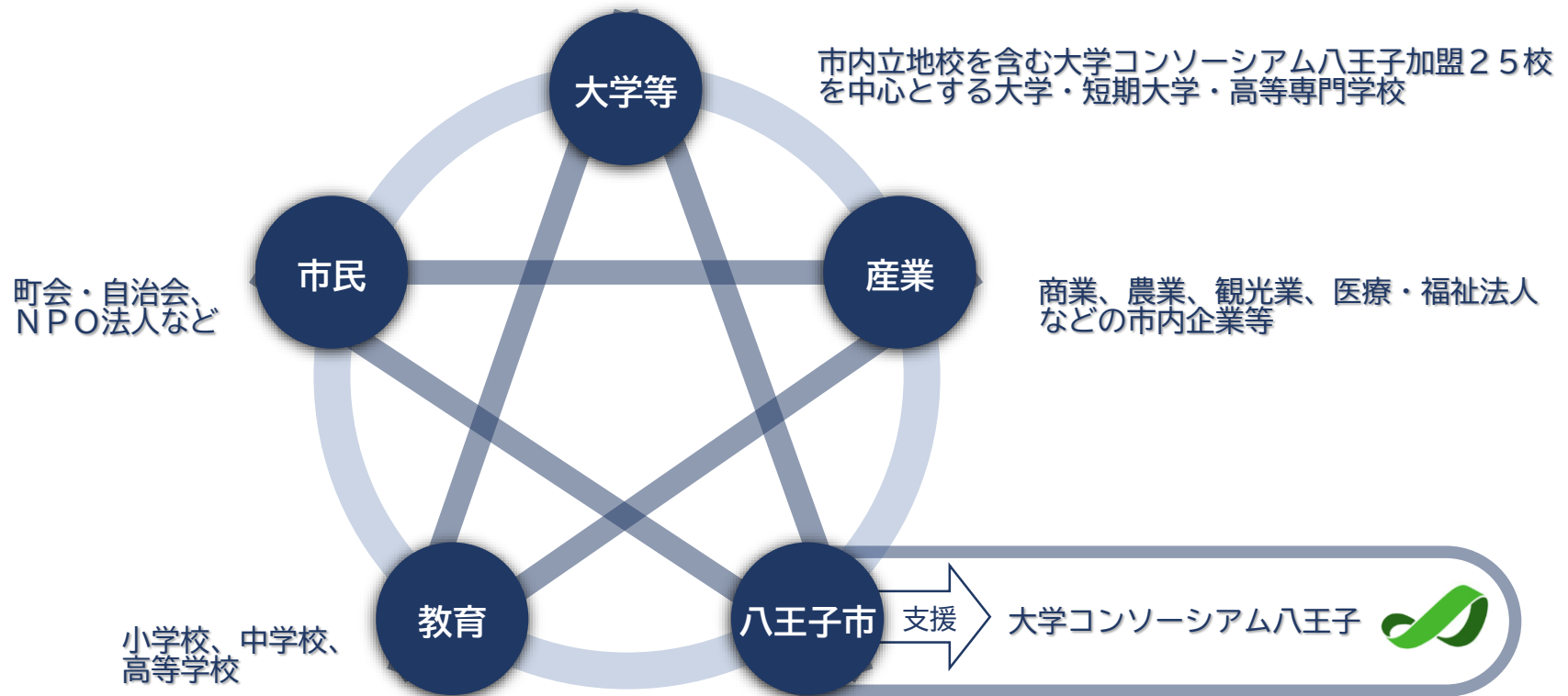
ビジョンの推進にあたって

1

推進体制

本ビジョンでは、学園都市づくりのパートナーとして支援する大学コンソーシアム八王子とともに、市民、大学等、企業等と連携することで取組を推進します。

なお、国や東京都の動向、学生数の推移を中心とした社会情勢の変化などを踏まえ、必要に応じて内容の見直しを行います。



大学コンソーシアム八王子 加盟機関

：25大学等、八王子商工会議所、八王子市学園都市推進会議、八王子学生委員会、（公財）八王子市学園都市文化ふれあい財団、（公財）大学セミナーハウス、NPO法人八王子市民活動協議会、八王子市

学園都市づくりを支える組織

本市では、大学コンソーシアム八王子を中心として、学園都市づくりの推進を目的として下記の団体が活動しています。これらの組織は「学園都市八王子」で活動する大学等、産業、市民、教育、行政の各主体同士の架け橋となり、地域連携や産学公連携による取組を推進しています。



大学コンソーシアム八王子

：加盟する八王子市周辺部も含めた25大学等、八王子商工会議所、八王子市学園都市推進会議、八王子学生委員会、（公財）八王子市学園都市文化ふれあい財団、（公財）大学セミナーハウス、NPO法人八王子市民活動協議会、八王子市が連携・協働し、より一層魅力ある学園都市を目指して高等教育の充実、地域社会の発展等を図るための各種事業を実施



八王子学生委員会

：大学コンソーシアム八王子加盟大学等の学生、市内在住の学生、八王子で活動している学生が、市民や本市と協働して、学生のまち八王子の魅力を発信



BIG WEST

八王子市学園都市推進会議

：市民や大学等関係者が構成員として、主体的に学生生活の支援を推進する会員制の市民団体



（公財）八王子市学園都市文化ふれあい財団

：大学コンソーシアム八王子、八王子学生委員会、八王子市学園都市推進会議の事務局を担当

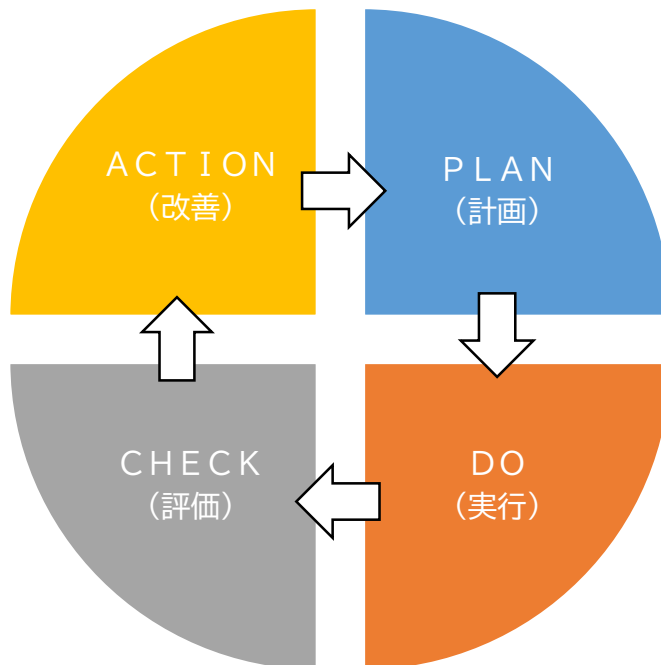
2

進行管理

本ビジョンを実効性のあるものとするために、P（PLAN：計画）、D（DO：実行）、C（CHECK：評価）、A（ACTION：改善）のマネジメントサイクルに基づき、進行管理とともに点検・評価し、評価結果をもとに、各基本施策における取組について、柔軟に見直し・改善を行います。

なお、学園都市づくりにおける施策の評価は、数値の増減だけでは表せない部分もあることも留意し、定性的な効果の把握にも努めながら、効果的・効率的な事業実施となるよう取り組んでいきます。

検証した結果や社会情勢の変化などを踏まえて取組を見直します。



基本理念、目指す姿の実現に向けて施策を立案します。

庁内各所管における取組状況を把握するとともに、KPIと成果の差異を検証します。

施策を実施します。